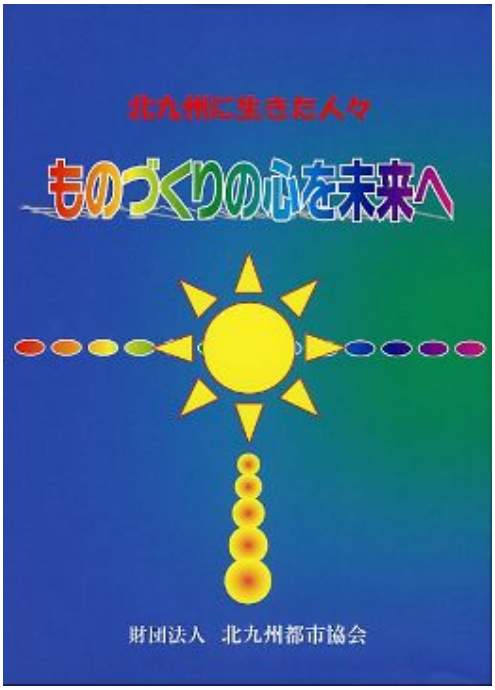
北九州テレビ Internet TV NEWS DIGEST
http://www.kitakyu.tv
お問合せ：info@kitakyu.tv
©北九州テレビ 2007

２００７．４．１ 第 44 号



～北九州に生きた人々～

「ものづくりの心を未来へ」発刊！

企画：北九州市企画政策室

北九州市と(財)北九州都市協会では、松尾宗次氏ほか共著による北九州の産業技術史「北九州に生きた人々 ものづくりの心を未来へ」と題した、書籍を発刊している。

同書は、北九州都市協会発行の月刊誌「ひろば北九州」に、平成15年1月号から平成16年12月号までの2年間にわたって好評連載されたもので、明治から昭和にかけ活躍した北九州の技術者、経営者が数多く登場し、高い志と強い使命感、鋭い感性と熱い探究心、真善美(人間の求める最高の理想)を追い求めた姿とはどういうものか、なぜ北九州が日本の高度成長の礎となりえたのかなどを明らかにする著書である。

また、「ものづくり」は「ひとづくり」であると言われるように、当時ものづくりに生きた人たちの姿勢は、現代にも重要な示唆を与えてくれるものであると言わしめる一冊となっている。

同書のなかで、北九州は、官営八幡製鐵所の創業開始以来、鉄をはじめ、セメント、石炭、化成品などの素材産業が興り、鉄道レール、衛生陶器、可鍛鋳鉄など、日本で初めての製品を数多く生み出し発展したまちと紹介している。

この本において筆者いわく「日本の産業技術史の縮図とも言うべき北九州の産業技術史」が、明治から昭和にかけて、様々な分野で活躍した人たちの姿を通して描かれている。

地域企業の創業当初は外国の技術や機械を導入し、外国人技術者の指導を仰ぎながら生産を開始し、外国の技術の模倣に留まることなく、日本の技術者の創意工夫により高品質なメードインジャパン製品を生み出し、やがて世界を席巻していった話など、北九州の産業の足跡をたどることで、その後の日本の高度成長につながる道筋が明らかになっている。

八幡製鐵所技師の服部漸氏

例えば、製鐵所技師服部漸（すすむ）氏の紹介では、「製鐵所操業直後に溶鉱炉の操業を休止せざる得ない製鐵所存続の危機に立ち向かい、溶鉱炉を甦らせて日本鉄鋼技術独立の第一歩を踏み出す大きな役割を果たした」後に、服部が製鐵所退職に際し、受けた記念品を鉄鋼協会に寄託した資金をもとに設けられた賞、それが服部賞である。と賞の成り立ちの紹介も詳しく解説している。

戸畑鋳物を創設した
鮎川義介氏

また、日産自動車の前身である「戸畑鋳物」を起こした鮎川義介の項に関しては、現在、戸畑鋳物の流れを組む現日産自動車と日立金属が北九州市に隣接する苅田町にある。その一つの日立金属は、鮎川が日本古来の「たたら製鉄」を行っていた島根県の安来製鋼所の技術の法灯を絶やしてはならないと手を差しのべ、それを継承する会

社であると紹介している。

また、日本初の釘の本格生産を行った、安田善次郎創業の安田工業八幡工場を紹介。旭硝子初代の岩崎俊彌社長の自力でソーダを生産するに至るまでを詳しく紹介している。

また、八幡製鐵所のレール製造、珪素鋼板製造の歴史など豊富に紹介されている。同著のなかで目を惹くものでは、国会議事堂の屋根は一万トン(当時、八幡製鐵所の鋼材生産量は四十万トン)もあり、それを日本橋箱崎町河岸に陸揚げ、その後、牛車で議院工事現場まで搬送した。と当時の模様も紹介され楽しく読むことができる。

「鉄を用いないものはない」と語った野呂景義氏

黒崎窯業（現 黒崎播磨）を創設した高良淳氏

製鋼用の炉材で必要である耐火煉瓦は、他より購入せず製造することが必要であると高炉の一人者であった野呂景義の言葉により、官営八幡製鐵所で煉瓦製造をしていた高良淳氏が安川・松本家の松本健次郎氏の力を借りて黒崎播磨（旧：黒崎窯業）を創設した経緯を紹介している。

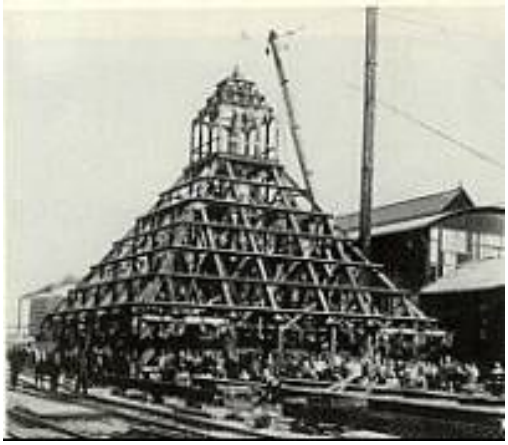
安川電機の創設者である安川敬一郎氏が、明治専門学校(現：九州工業大学)創立時、会津藩の最年少兵士であり、後名門エール大学に進み同専門学校の初代総裁となった山川健次郎氏(後東京帝国大学総長、九州帝国大学初代総長、東宮御学問所評議員となる)の紹介とともに、帝国大学の歴史もわかる等々、お薦めの一冊となっている。

ただいま、北九州市内の主要書店で販売中。

問い合わせは、（財）北九州市芸術文化振興財団（北九州市八幡東区中央二丁目 1-1 レインボープラザ 5 階 電話 093-662-3012）まで。

旭硝子を設立した 岩崎俊彌氏

安川電機製作所を設立した安川敬一郎氏



帝国議事堂中央塔鉄骨の仮組み中の写真
「八幡製鐵所写真集より」

手吹き円筒法による
硝子板づくり「社史 旭硝子」

レールを製造した軌条（条鋼）工場：八幡製鐵所

鉱滓煉瓦造三階建地下一階の
旧新日本製鐵（株）八幡製鐵所本事務所全景（八幡東区枝光本町）

市民参加による「たたら製鉄」：現在、北九州市と八幡製鐵所の共催により行われている。
場所：東田第一高炉史跡広場